



〈概要〉

21 回目を数える高知街ラ・ラ・ラ音楽祭。新しいステージに向けたスタートの年です。これまでの 20 回を振り返ると、どの回も、さまざまな人の力が集まって生み出された奇跡の結晶だったと、今にして思います。そして、それがつながって無事に 21 回目を迎えられたことは、人の力を超えた、いろいろな偶然に助けられた結果でもあるでしょう。

世界中で今も戦火に苦しむ人々がいます。不穏な世界情勢は、決して私たちと無関係ではありません。また、一見平和な日本も、環境悪化がもたらす気候変動や地震等、自然災害の不安に常にさらされています。

格差社会と言われて久しくなりましたが、地球上のどこで生を受けたかによって、現実はずさまじく不公平です。温暖化のために飢餓に苦しみ、住居を奪われる人々の見る世界と、便利さへのあくなき追求を続ける人々の見るそれとは、同じでしょうか。

短いスパンでどのような大変動が起きるか予測できない現代、一筋の髪の毛で吊るされた剣の真下にいるような恐れにとらわれます。

こんな時代を生き延びていくための概念として、「サステナブル」（持続可能）ということがさかんに言われるようになりました。かつては、未来に向かって発展していくというモデルが信じられていました。しかし、今では、地球規模「持ちこたえていくこと」が、目標として意識されるようになっていっています。

20 回の積み重ねは、当たり前のことではありません。しかし私たちはこれから先も、あたかも当たり前であるかのように、ラ・ラ・ラ音楽祭を続けていきたいと思っています。

音楽があふれる秋の一日、あなたとともに過ごす、かけがえのない時間。私たちの望みはシンプルです。サステナブルな音楽祭であるために何が必要なのか考えながら、これからも進んでいきたいと思っています。

〈目的・効果〉

ミュージシャンにとっては発表と交流の場になり、高知の音楽シーンの裾野を広げるとともにレベルアップにもつながります。まちなかに設けた複数の会場から一日中音楽が流れることにより、回遊性が生まれ、人々が音楽を媒体としてまちに親しみ、ひいては中心市街地の活性化につながることを期待されます。

〈歴史〉

ラ・ラ・ラ音楽祭が始まった 2002（平成 14）年当時は、郊外型の大型店舗が高知にも押し寄せてきた時期でした。この音楽祭は、高知市の中心市街地を活性化するための取組の一つとして始まりましたが、その年の開催が決まっていた「よさこい高知国体」のために高知を訪れる人々を歓迎する気持ちもこめられていました。

最初の年は、会場は 5 会場。出演者も 50 組ほどの規模でしたが、幸いに好評を博し、その期待にこたえるため、毎年開催をするようになりました。

いまでは会場数は倍以上に増え、日本中からたくさんのミュージシャンが応募してくれるようになり、「秋の一日、音楽が流れる日」として、多くの人に親しまれています。

平成 16 年にはじまったイベント「土佐のおきゃく」にも参加していますが、毎年 3 月に行われることから、秋の本祭に対して、こちらは「ラララ春まつり」の名前で定着しています。

第 10 回の 2011 年 3 月には、東日本大震災が発生し、音楽祭の意味を改めて問う機会となりましたが、東北で活躍する 3 組のミュージシャンを迎え、音楽の持つ力を確認することができました。

そして第 20 回には高校生とその卒業生を中心に「NEST GENERATION'S」と題し、若い世代の力を発信しました。私たちは、新たな取り組みを続けることによって常に進化し続ける音楽祭でありたいと願っています。

当初からのテーマである「街をステージに」というコンセプトも定着し、街そのものを使ったイベントが、この音楽祭をきっかけに少しずつ増えて行きました。結果として、街の魅力とにぎわいは、確実に広がっています。

〈運営資金〉

運営にかかる経費は、一般公募による出演者一人当たり 3,000 円の協力金、配布物への広告掲載料及び募金によりまかなわれています。

〈ゲストミュージシャンについて〉

知名度に左右されることなく、心から「たくさんの人に聞いてもらいたい」と思うミュージシャンに出演をお願いしてきました（過去のゲストについては別紙参照）。

〈入場料〉

入場料は徴収していません。後夜祭も含め、無料で観覧することができます。

〈主催〉

高知街ラ・ラ・ラ音楽祭実行委員会 会長 広末幸彦 実行委員長 門脇隆彦
公益財団法人高知市文化振興事業団内 高知市九反田2-1 TEL 088-883-5071

〈参考〉これまでの実績について

回数	会場数	出演 バンド数	ゲスト	備考
第1回（2002年）	中央公園、ひろめ市場など5会場	48	Blues File No.1 近藤房之介	高知国体夏季大会 歓迎イベント
第2回（2003年）	中央公園、丸の内緑地など7会場	83	三崎ともやす、シシムンド 近藤房之介	
第3回（2004年）	中央公園大橋通りなど、8会場	90	西村入道、クンチョウ、三宅伸治、ローローズ、友部正人	
第4回（2005年）	中央公園大橋通りなど、13会場	150	近藤房之介、有山じゅんじ、ローローズ、西村入道、ペッカー	
第5回（2006年）	中央公園、大橋通りなど12会場	150	木村充揮、てっちゃん&せのちゃん、三宅伸治、ローローズ	
第6回（2007年）	中央公園、大橋通りなど13会場	160	クレージーフィンガーズ、ローローズ	
第7回（2008年）	中央公園、大橋通りなど11会場	135	南佳孝	
第8回（2009年）	中央公園、大橋通りなど10会場	128	三宅伸治、ローローズ、桑名晴子	
第9回（2010年）	中央公園、大橋通りなど10会場	121	三宅伸治 BAND、片山広明、矢野絢子	
第10回（2011年）	中央公園、大橋通りなど9会場	120	HEATWAVE、PACHANGA、高木まひことシェキナベイビーズ他	震災復興チャリティ 前夜祭開催

第11回(2012年)	中央公園、大橋通りなど9会場	121	MAGICAL CHAIN CLUB BAND、PACHANGA、スーパーバンド他	
第12回(2013年)	中央公園、大橋通りなど10会場	128	BLACK BOTTOM BRASS BAND、王様	
第13回(2014年)	中央公園、大橋通りなど、9会場	123	曾我部恵一	
第14回(2015年)	中央公園、大橋通りなど9会場	121	ichiro	Ustream 会場あり
第15回(2016年)	中央公園、大橋通りなど10会場	134	Biscotti、秋本節、竹本洋介	大学生運営会場
第16回(2017年)	中央公園、大橋通りなど4会場	101	ポロロッカリンド	台風のため中止、2018年3月「ラ・ラ・ラ春まつり」を2Daysとして開催
第17回(2018年)	中央公園、大橋通りなど10会場	126	TOSHIAKI KIMURA BAND	
第18回(2019年)	中央公園、大橋通りなど10会場	146	リクオ・ウルフルケイスケ 高木まひことシェキナベイベーズ	
第19回 (2020~2022年)	新型コロナウイルスの影響により中止、「”WEB”ラ・ラ・ラ音楽祭」として、2020年はのべ75組が、2021年は45組が参加。2022年は95組がラララ春祭りとして開催			
第20回(2023年)	中央公園、大橋通りなど10会場	130	フラチナリズム	高校生及び卒業生による前日祭『NEXT GENERATIONS』開催